

## 第74回日本医学検査学会の開催にあたり



一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会  
代表理事 会長 横地 常広

第74回日本医学検査学会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

平素より会員の皆様には、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会の活動にご理解、ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

本学会は一般社団法人鳥取県臨床検査技師会が担当し、湯田範規学会長のもと「外は大阪、中は鳥取」の思いを込めて、学会場の中では鳥取色を存分に味わっていただこうと企画されています。学会テーマは「+α～臨床に貢献できる検査技師とは～」とし、令和7年5月10日(土)・11日(日)の両日、「大阪国際会議場(グランキューブ大阪)」で開催されます。学会企画として「高齢化先進県から認知症の情報発信」「不祥事防止のツボ」の特別講演、分野別企画、日臨技企画、国際シンポジウム、国際学生フォーラム、一般演題発表など多くの企画が準備されています。我々の根幹である「品質保証された検査データの提供」を担保する上で「知識・技術」の研鑽は必要不可欠であり、貴重な機会である本学会を通して、新たな知識、技術に是非とも触れていただきたいと思えます。

さて、今後の人口減少の影響により我々を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。地域医療を確保するために医療機関では、「新たな検査室」の創出が求められているのではないのでしょうか。医療費の適正化に向けた各種の施策が進められるなかで、全国の多くの医療機関で「医業収益率」の悪化が報告されています。医療材料費など物価の上昇と人件費の高騰などにより病院経営の厳しさは今後も続くことが推測され、安易な人員増は望めない状況です。行政が進める「医療DX」に合わせ、自施設の実情に合わせた業務改善を進めるために、新たな技術革新、デジタル技術などを活用して、限られた人財でいかに「生産性を上げるか」を目指した「臨床検査DX」への取り組みが必要であると思えます。医師の働き方改革をトリガーとして進められた「タスク・シフト/シェア」による業務拡大を前向きにとらえ、業務の効率化による人員確保に努め、臨床検査技師が必要とされる場所(新たな場所)に再配置のうえ、医療スタッフから信頼して任せられる業務(タスクシェア)を遂行することで、医療スタッフの一員としての評価に繋げることができると考えます。

結びに、本学会の開催にあたり、湯田学会長、藤井実行委員長はじめ、鳥取県臨床検査技師会の皆様方に感謝申し上げるとともに、機器展示、ランチョンセミナーなど学会開催に向けてご協力いただきました賛助会員の皆様方に厚くお礼申し上げます。

本学会にご参加いただきました皆様方にとって、実り多き学会となりますよう祈念申し上げ、主催者を代表してご挨拶いたします。